

### 1 経営的特徴と導入方法

かつて生け花のねじめとして使用されていたが、花色、茎長、着果数の変化と受咲きの品種の増加からアレンジメント用としての利用が増加している。

経営面では、チューリップ、スイセンに比べ到花日数が3週間ほど長くかかること、栽植密度からチューリップの5割増の面積が必要なことなどから必ずしも他の球根促成に比べて有利とは限らない。また、経営費に占める種苗費の割合が高い。

栽培は、比較的容易だが、葉やけ、ブラインドなどの発生は、品種間差が大きいので、品種の選定が大切となる。

表1 10a 当たり作業別、旬別所要労働時間（単位：時間）

① 作業別労働時間

項 目	時 間	項 目	時 間
植 え 付 け 床 の 準 備	14.0	病 害 虫 防 除	18.0
植 え 付 け	80.0	収 穫 ・ 出 荷	300.0
支 柱 立 て ・ ネ ッ ト 張 り	30.0	後 か た づ け	32.0
か ん 水 ・ 除 草	39.0		
遮 光	30.0	合 計	543.0

(注)

1. 青森県主要作目の技術・経営指標（1994.3）
2. 出荷本数 25,000本/10a  
10月定植6月出荷

② 旬別労働時間

月	1 月			2 月			3 月			4 月			5 月			6 月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
時間							1.5	3.0	4.5	43.5	7.5	13.5	37.5	6.0		100.0	100.0	100.0

7 月			8 月			9 月			10 月			11 月			12 月			合計
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
32.0											14.0	40.0	40.0					543.0

### 2 生理・生態的特性と適応性

(1) 生態的分類

アジアティック系ユリはエゾスカシユリ、イワトユリ、オニユリ、コオニユリ等中国大陸や日本などアジアに自生する固有種の種間雑種とされていて、代表的なのがスカシユリである。

花色は黄、橙、赤、白と豊富で、花形も上向きから下向きで反り返るものまで多様である。主として、カロチノイド色素からなる橙色のユリを交雑して作られるため、全般に花色は鮮やかなものが多い。香りはほとんどない。

(2) 開花特性

ア 温度

萌芽適温は15～20℃であるが、低温処理した方が萌芽、抽だいが早く、8～10℃で6～8週間が最適である。栽培温度が23～18℃（昼～夜温）で芽長が5cmくらいでは分化は完了していると言われる。

13～8℃（昼～夜温）でも定植後46日で花卉形成期に到達する。

イ 花芽分化

ユリ類の花芽分化の適温は10～20℃とやや低温にある。

3 作型と品種

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
抑制栽培	◎ ————— ◎ <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 100px; height: 15px; vertical-align: middle;"></span>											
半促成栽培	<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 200px; height: 15px; vertical-align: middle;"></span> ◎ — ◎ —————											

(1) 作型

ア 抑制栽培（無加温ビニールハウス）

球根を-2℃程度で凍らせると、長期間貯蔵することが可能となり、ビニールハウスの後作として、または、出荷時期に合わせて植え付けを行うと、計画的に継続して出荷することができる。植え付け時期と球根の重さが、採花期及び切り花品質に及ぼす影響を表 2, 3 に示した。

表2 採花期

(平成2年 青森畑園試)

品 種 名	植え付け時期 (月/日)	球根重 (g)	採花期 (月/日)			植え付けから採花 最盛期までの日数
			始 期	盛 期	終 期	
コネチカットキング	11/30	35.2	5/31	6/ 7	6/13	189
	5/15	24.2	7/21	7/24	7/26	70
	5/25	24.4	7/25	7/30	8/ 1	66
	6/ 5	23.7	7/31	8/ 2	8/ 4	58
	6/15	24.0	8/ 6	8/ 8	8/10	54
	6/25	24.5	8/ 8	8/10	8/12	46
	7/ 5	25.5	8/17	8/20	8/25	46

注1) 球根重：植え付け時

2) 採花期：始期10%、最盛50%、終期90%

3) 球根は前年の12月から5月上旬まで凍結貯蔵を行い、5月中旬以降は約2℃の冷蔵庫で7月中旬まで貯蔵した。

表3 切り花品質

(平2 青森畑園試)

品 種 名	植え付け時期 (月/日)	切り花長 (cm)	葉 数 (枚)	花 数 (個)	茎 径 (mm)	切り花重 (g)
コネチカットキング	11/30	81.5	66.6	6.0	7.2	76.1
	5/15	77.5	66.0	7.0	6.6	83.7
	5/25	80.7	69.2	7.6	6.8	89.6
	6/ 5	71.3	62.6	7.1	6.7	71.8
	6/15	64.7	63.8	7.2	6.7	61.5
	6/25	58.4	57.8	6.2	6.2	50.8
	7/ 5	62.8	57.8	6.1	6.2	55.8

## イ 半促成栽培（無加温）

無加温ハウスの高度利用を考えた場合、年2作行うことが有利である。無加温ハウスの前作として、半促成栽培が行われている。植え付け期は11~12月で、出荷期は6月中旬~下旬である。球根重と採花期及び切り花品質との関係は表4のとおりである。

表4 採花期と切り花品質（簡易ハウス）

(昭61年 青森畑園試)

品種	植え付け 時期 (月/日)	1作目の 球根重 (g)	切り下球の 球根重 (g)	採花期			到花 日数 (日)	切り花 長 (cm)	茎長 (cm)	葉数 (枚)	花数 (個)	切り 花重 (g)
				始 (月/日)	最盛 (月/日)	終 (月/日)						
エンチャント	7/15	27.3	8.2	6/16	6/23	7/7	196	46.9	37.7	43.7	2.0	22.2
メント	7/25	16.7	6.1	6/16	6/23	7/4	196	52.3	43.3	41.5	2.1	26.6
	8/ 5	17.6	6.0	6/15	6/20	7/1	195	54.0	45.1	42.0	2.2	28.9

注) 植え付け期は1作目の植え付け期で採花期は8月下旬~10月であり、1作目から得られた切り下球の植え付け期は昭和60年12月2日である。

## (2) 品 種

ユリ類の中では最も品種が多い。特に近年はオランダで品種改良が進み花色は従来からあった赤、オレンジ、黄に白やピンクの中間色加わり、花弁に黒斑の無いノースポットの品種が育成された。これらの品種は凍結貯蔵球根を利用した抑制栽培による周年生産を念頭において育成されるため、高性、多花性のものが多い。

「コネチカットキング」：花色は黄色で斑点のない大輪種である。高温に弱いため、定植、生育期に高温を経過する作型では「葉やけ」、ブラインドが多発する。

「モナ」：花色は黄色で、「葉やけ」発生がなく抑制栽培に向く。

「サンシロー」：花色は桃色で斑点があり、草丈やや低い早生種。「葉やけ」の発生が少ないが耐暑性は弱い。凍結貯蔵球根を用いての抑制栽培で先端の花らいから開花する頂点咲きが全株発生し品質が低下する。

「ビバルディー」：花色桃色で「葉やけ」の発生がない中輪種。

「グランパラディソ」：赤橙色の中輪種。「葉やけ」の発生はなく、病害に強く、高温期の植え付けにも向く。



写真1「モナ」



写真2「サンシロー」

表5 アジアティックハイブリッドユリの品種特性

品種名	開花期	草丈	花径	花の向き	斑点	その他
グランパラディソ	晩	高	大	上向受咲き	無点	日照不足に敏感、葉やけ少ない
アビニオン	早	高	大	斜上向	無点	多葉・立葉、葉やけ少ない
エリート	早	高	大	斜上向	無点	立葉、葉やけ少ない
トスカーナ	晩	高	大	斜上向	無点	日照不足に敏感、花持ち良い
レガッタ	中	高	大	斜上向受咲き	わずか有	多花性、花持ち良く栽培容易
モンテローザ	中	高	大	上向	無点	花持ち、花つきよい
ポリアナ	晩	高	大	斜上向	ほとんどなし	葉やけは出にくく花付きも良
モナ	中	中	大	上向受咲き	無点	葉やけが出にくい
コネチカットキング	晩	中	中の大	斜上向受咲き	無点	葉やけ出やすい、花持ち良い
サンシロー	早	高	大	上向受咲き	有・小	栽培しやすく、葉やけ少ない

## 4 栽培

### (1) 球根の凍結貯蔵法

球根を安全に長期貯蔵するには、 $-2^{\circ}\text{C}$ 程度での冷蔵が必要である。球根が $-2^{\circ}\text{C}$ 程度の低温に耐えられるようにするには、球根を $1\sim 2^{\circ}\text{C}$ の低温に6～8週間(11～12月)遭遇させ、その後 $-2^{\circ}\text{C}$ の長期冷蔵に入ると、安定した冷蔵が可能である。

球根は腐敗した根やりん片をきれいに取って、下根を傷めないように湿らせた(握ってわずかに水がしみ出す程度)オガクズやピートモスで包んで箱詰めする。箱詰め後小孔をあけたポリエチレンで包装すると乾燥防止になる。

貯蔵中に冷蔵庫内の温度が $0^{\circ}\text{C}$ 以上になると球根内の芽が伸長して、長期貯蔵ができなくなるので十分に気をつける。

### (2) 凍結貯蔵球根の解冻順化

凍結球根を使用する場合は、解冻を行う。 $5^{\circ}\text{C}$ で2日～2週間解冻順化を行うと切り花品質が向上する。また、常温での解冻順化は切り花長、切り花重等品質の低下を招く。

表6 「グランパラディソ」の解凍順化

(平成7年 野菜・茶試)

品 種 名	順 化		順化後 芽長 (cm)	開花日 (月/日)	開花 株率 (%)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	着花数 (個)	奇形花 発生株率 (%)
	温度	期間							
グ ラ ン パ ラ デ イ ソ	常 温	2日	2.8	9/10	100	83.6	117	4.7	0
		1週	8.0	9/ 5	100	84.6	114	3.8	0
		2週	18.4	8/29	100	75.6	101	3.9	40
		3週	29.7	8/29	90	72.8	87	3.0	0
	5℃	2日	2.3	9/10	100	89.7	128	4.5	10
		1週	1.9	9/12	100	87.8	118	3.8	0
		2週	5.3	9/ 8	100	88.4	129	5.0	0
		3週	4.6	9/ 6	100	85.2	117	4.5	10
	15℃	2日	2.9	9/10	100	87.4	119	4.1	0
		1週	5.6	9/ 7	100	84.5	112	4.1	20
		2週	12.7	9/ 2	100	78.3	108	3.7	10
		3週	18.2	8/31	100	74.4	96	3.6	0

## (3) 畑の準備・施肥

好光性植物のため、日当たりの良い排水、保温性の良好なほ場を選定する。高温期には植え付けの1週間前より遮熱ネット等で遮光を行い、地温の低下につとめる。

アジアティックハイブリッドの窒素吸収量は0.5~0.9kg/a程度であるが、使用する球の大きさで施肥窒素の利用率は異なると考えられ、実際の施肥量は中小球で1.0~1.5kg/a、大球で0.5kg/a程度とされる。

植え付け直後には主に球根の養分を利用して生育し、初期の養分吸収は少ない。そのため、追肥を主体とした施肥が生育に合っていると考えられる。好適ECは黒ぼく土で0.5mS/cmとされる。好適pHは文献によって値が異なるが概ね6.0前後でよい。通常施肥量は窒素、加里を1.0kg/a、りん酸を0.5kg/a程度とし、球が大きい場合は施肥量をやや減する。

## (4) 植え付け

高温期の植え付けでは、遮光資材等により地温の低下に努めるが、梅雨時、秋季などは光量不足とならないように天候をみて遮光資材を取り除く。栽植密度は12×12cmとする。覆土は5cm位にした方が上根の発達が良い。

## (5) 植え付け後の管理

## ア 温度管理

昼温20℃、夜温10℃が適する。特に高温は品質を低下させるので十分換気に努める。

## イ かん水

かん水は植え付け後十分に行い、発らい期頃までは地表が白く乾かないようかん水する。生育初期に水分不足になると、草丈の伸長が悪くなるので注意する。出らい期の以降はかん水を控えめにし、茎を硬く仕上げる。

## ウ 遮 光

高温期の植え付けでは、温度の上昇と乾燥を防ぐために45~70%の遮光を行う。遮光率39~60%の資材で遮光すると、6月中旬植え付け及び7月上旬植え付けとも、切り花長が長くなり、遮光することによって切り花品質が向上する。

表7 採花期 (品種: コネチカットキング)

(平2年 青森畑園試)

植え付け時期 (月/日)	遮光率 (%)	球根重 (g)	採花期 (月/日)			植え付けから採花 最盛期までの日数
			始期	盛期	終期	
6/15	0	24.0	8/6	8/8	8/10	54
	3.9	24.5	8/6	8/8	8/10	54
	5.1	24.4	8/6	8/8	8/10	54
	6.0	24.7	8/6	8/8	8/14	54
7/5	0	25.5	8/17	8/20	8/23	46
	3.9	25.6	8/17	8/20	8/23	46
	5.1	25.1	8/17	8/20	8/23	46
	6.0	26.2	8/19	8/20	8/23	46

注1) 遮光率: 3.9% (タフベル3800S)、5.1% (黒寒冷紗#600)、6.0% (鼠寒冷紗#327)

2) 球根重: 植え付け期 3) 採花期: 始期10%、最盛50%、終期90%

表8 切り花品質 (品種: コネチカットキング)

(平2年 青森畑園試)

植え付け時期 (月/日)	遮光率 (%)	切り花長 (cm)	葉数 (枚)	花数 (個)	茎径 (mm)	切り花重 (g)
6/15	0	64.7	63.8	7.2	6.7	61.5
	3.9	72.3	62.6	6.7	6.6	62.7
	5.1	73.7	62.1	6.6	6.7	61.1
	6.0	77.0	65.4	6.7	6.9	65.8
7/5	0	62.8	57.8	6.1	6.2	55.8
	3.9	71.1	57.9	5.7	6.3	58.4
	5.1	70.5	55.4	5.2	6.2	55.0
	6.0	70.6	57.7	5.9	6.3	56.9

## (6) 球根生産

## ア 球根の肥大

りん片ざしにより、養成1年目は約1gの小球を形成し、そのまま養成栽培を継続すると、2年目約10gに肥大する。3年目はこの球根を植え替えることにより、平均20g以上の球根が養成される(表8, 9, 10)。

## イ りん片ざし

りん片ざし0.3g以上であれば球根養成に利用できる。りん片ざしの時期は11月中旬から12月上旬頃とし、ざし床用土は川砂等無病のものをを用いる。りん片挿しは育苗箱にりん片を2分の1~3分の1の深さにさし芽し、温床に置き最低気温10℃を確保するために保温マットトンネルを行う。40日後頃から発根するので根が2~3cmになったら2.5号黒色ポリポット等に鉢上げを行い、活着したら無加温ビニールハウス内で保温マットで被覆して育苗する。

## ウ 栽培条件

1年目はうね幅160cm、条間10cm株間10cmの9条植えとして発根したりん片を5月中旬に植え、3年目はうね幅160cm、条間10cm株間12cmの8条植えで10月上旬に小球根を植え付ける。黒マルチをし、ポリトンネルによる雨よけ栽培とする。ポリトンネルは幅約110cm、高さ約150cmで両わきをうね面から約50cm開放しておく。施肥量は1年目、3年目ともa当たり三要素を1kg程度とする。

エ 摘らい処理

発らいが完了する6月中旬頃から摘らいすることにより、養育球根の大幅な肥大がはかれる。

表9 りん片ざしによる球根養成1年目 (平成元年 青森畑園試)

栽培条件	りん片重	株当たり 球根数 (個)	平均 球根重 (g)	球根の重さ別分布 (%)					
				2g未満	2~4g	4~6g	6~8g	8~10g	10g以上
無マルチ	0.3~0.4g	1.3	4.0	25	30	20	23	2	0
	0.5~0.9g	1.4	5.6	16	16	14	29	20	5
	1.0g以上	1.8	5.0	11	34	22	17	10	6
黒マルチ	0.3~0.4g	1.4	5.1	12	19	37	15	15	2
	0.5~0.9g	1.7	5.5	9	23	29	23	10	6
	1.0g以上	2.1	4.2	23	25	32	9	7	4
無マルチ +	0.3~0.4g	1.2	5.6	5	19	41	8	19	8
	0.5~0.9g	1.8	4.7	19	23	23	22	7	6
ポリトン祉	1.0g以上	2.0	5.5	6	33	24	21	9	7
黒マルチ +	0.3~0.4g	1.1	7.6	3	6	21	34	15	21
	0.5~0.9g	1.6	5.8	14	20	26	14	15	11
ポリトン祉	1.0g以上	2.3	5.1	13	26	27	20	9	5

表10 りん片ざしによる球根養成2年目 (平成2年 青森畑園試)

栽培条件	りん片重	株当たり 球根数 (個)	平均 球根重 (g)	球根の重さ別分布 (%)			
				10g未満	10~15g	15~20g	20g以上
無マルチ	0.3~0.4g	1.4	9.1	79	7	14	0
	0.5~0.9g	1.7	8.4	76	20	4	0
	1.0g以上	2.4	7.3	79	20	1	0
黒マルチ	0.3~0.4g	1.4	11.0	50	26	22	2
	0.5~0.9g	1.9	8.3	68	19	11	2
	1.0g以上	2.3	11.0	46	38	9	7
無マルチ +	0.3~0.4g	1.4	12.9	39	24	20	17
	0.5~0.9g	1.7	10.7	46	35	11	8
ポリトン祉	1.0g以上	2.3	8.8	65	26	6	3
黒マルチ +	0.3~0.4g	1.3	17.4	13	29	29	29
	0.5~0.9g	1.7	11.5	43	29	20	8
ポリトン祉	1.0g以上	2.3	10.3	53	32	11	4

表11 りん片ざしによる球根養成3年目

(平成3年 青森畑園試)

栽培条件	りん片重	株当たり 球根数 (個)	平均 球根重 (g)	球根の重さ別分布 (%)				
				10g未満	10~20g	20~30g	30~40g	40g以上
無マルチ	10.0g未満	1.02	21.4	2	47	43	8	0
	10.0~14.9g	1.06	23.7	2	41	33	18	6
	15.0~19.9g	1.08	26.9	0	27	34	31	8
	10.0~14.9g摘らい	1.00	38.0	0	4	19	35	42
黒マルチ	10.0g未満	1.04	22.0	6	46	32	8	8
	10.0~14.9g	1.00	26.4	2	23	41	19	15
	15.0~19.9g	1.00	29.0	0	10	61	17	12
	10.0~14.9g摘らい	1.02	37.4	2	6	20	35	37
無マルチ +	10.0g未満	1.02	16.7	2	75	23	0	0
	10.0~14.9g	1.04	18.5	0	66	32	2	0
ホリソネ	15.0~19.9g	1.06	22.2	0	43	43	12	2
	10.0~14.9g摘らい	1.15	25.0	0	30	47	17	6
黒マルチ +	10.0g未満	1.00	21.3	0	42	52	6	0
	10.0~14.9g	1.04	22.7	2	38	50	10	0
ホリソネ	15.0~19.9g	1.06	25.5	6	25	41	18	10
	10.0~14.9g摘らい	1.17	29.4	0	20	35	23	22

## 5 主要病害虫とその対策

### (1) 病 害

#### ア 葉枯病

葉、茎、つぼみ及び花弁などに茶褐色で円形～楕円形の斑点を生じる。多湿時には病斑に胞子を形成し、上位葉や花弁にまで発生して大きな被害となることがある。病原菌は *Botrytis elliptica* で各種植物灰色かび病菌 (*Botrytis cinerea*) と同属であるが別種である。主にユリ類及びその近縁種に寄生する。

発生の特徴と防除法は共通事項の灰色かび病を参照。

#### イ 腐敗病

球根基盤部などから発病し、球根全体が褐色に腐敗する。球根表面には白色綿毛状の菌糸が多数発生し、地際茎は淡褐色、水浸状に腐敗する。病原菌は植物残渣などで長く生存するとともに、り病球根が伝染源となることもある。高温多湿で発病しやすく、また発病の進展も早い。

防除は植え付ける球根は無病のものを扱い、腐敗球は除去する。球根消毒も有効である。この他植え付け直後から過度のかん水は避け、通風を良くして湿度を低く管理する。また、植え付けや収穫は球根を傷つけないようにていねいに行う。

#### ウ ウイルス病

葉に種々のモザイク症状、えそ条斑、細葉、湾曲、ねじれあるいは株の萎縮症状などが現れる。病原ウイルスは数種記録されているが、激しい症状を示すものとしてキュウリモザイクウイルス (CMV)、チューリップモザイクウイルス (TBV)、リンゴステムグルーピングウイルス (ASGV; 異名カンキツタタリーフウイルス、CTLV) などがある。この他、ユリ潜在ウイルス (LSV)、ユリマイルドモットルウイルス (LiMMV)、タバコモザイクウイルス (TMV) などが報告されている。CMV、TBV 及び LSV はアブラムシで伝染する。



防除は無病の球根を用いるとともに、アブラムシ及び刃物での伝染を防ぐ。

(2) 虫 害

ア アブラムシ類

ユリで問題となるのはワタアブラムシで、生長点付近の密生した葉に群棲する。ウイルス病の媒介昆虫としても重要である。

発生の特徴と防除方法は、共通事項を参照する。

イ ネダニ

被害球はりん片が褐変、腐敗する。生育時に被害がでると、著しい生育不良となる。植え付け時に土壌処理剤を床土に混和する。

## 6 収穫・調製・出荷

つぼみが着色した時に行い10本を1束にして、100本を段ボール詰めして出荷する。

### 参考・引用文献

- 1) 富田 広「農業技術大系花卉編10シクラメン 球根類」農山漁村文化協会（平成7年）
- 2) 長野県, 長野県農協中央会, 長野県経済連「花き栽培指標」（平成10年）
- 3) 青森県農業研究推進センター「平成4年度指導奨励事項・指導参考資料等」

# アジアティックハイブリッド系ユリ栽培ごよみ

月	旬	抑制栽培		半促成栽培		栽培の要点	摘要																																	
		生育	作業	生育	作業																																			
6	上	畑・球根の準備	植え付け	収穫	収穫始め	1. 作型 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td></td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>抑制栽培</td> <td colspan="10">◎ ——— ◎ — <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>半促成栽培</td> <td colspan="10"><input type="checkbox"/> ——— <input type="checkbox"/> ◎ — ◎ ———</td> </tr> </table> (注) ◎植え付け — 生育期間 □収穫期間		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	抑制栽培	◎ ——— ◎ — <input type="checkbox"/>										半促成栽培	<input type="checkbox"/> ——— <input type="checkbox"/> ◎ — ◎ ———										
							4	5	6	7	8	9	10	11	12	1																								
	抑制栽培						◎ ——— ◎ — <input type="checkbox"/>																																	
半促成栽培	<input type="checkbox"/> ——— <input type="checkbox"/> ◎ — ◎ ———																																							
中																																								
下																																								
7	上	かん水	植え付け	収穫	収穫始め	2. 凍結貯蔵球根の凍結順化 凍結球根を使用する場合は、解凍を行う。5℃2日～2週間解凍順化を行うと切り花品質が向上する。																																		
	中																																							
	下																																							
8	上	かん水	植え付け	収穫	収穫始め	3. 畑の準備・施肥 a 当たり有機物を200kg、窒素と加里は1.0kg、りん酸は0.5kg 程度施用する。球が大きい場合は施肥量をやや減する。																																		
	中																																							
	下																																							
9	上	かん水	植え付け	収穫	収穫始め	4. 植え付け 栽植距離は、株間12cm、条間12cmとする。 植え付けの深さは、球根上部から地表まで5cm 程度とした方が上根の発達が良い。																																		
	中																																							
	下																																							
10	上	かん水	植え付け	収穫	収穫始め	5. 植え付け後の管理 (1) 温度：温度管理は昼温20℃、夜温10℃が適する。特に高温は品質を低下させるので十分換気に努める。 (2) かん水：かん水は植え付け後十分行い、発らい期頃までは地表が白く乾かないようにかん水する。生育初期に水分不足になると、草丈の伸長が悪くなるの注意する。出らい期の以降のかん水を控えめにし、茎を硬く仕上げる。 (3) 遮光：高温期の定植では、温度の上昇と乾燥を防ぐために45～75%の遮光を行う。遮光率39～60%の資材で遮光すると、6月中旬植え付け及び7月上旬植え付けとも、切り花長が長くなり、遮光することによって切り花品質が向上する。																																		
	中																																							
	下																																							
11	上	かん水	植え付け	収穫	収穫始め	6. 収穫 つぼみが着色した時点で収穫する。																																		
	中																																							
	下																																							
12	上	かん水	植え付け	収穫	収穫始め																																			
	中																																							
	下																																							
1	上	かん水	植え付け	収穫	収穫始め																																			
	中																																							
	下																																							
2	上	かん水	植え付け	収穫	収穫始め																																			
	中																																							
	下																																							
3	上	かん水	植え付け	収穫	収穫始め																																			
	中																																							
	下																																							
4	上	かん水	植え付け	収穫	収穫始め																																			
	中																																							
	下																																							
5	上	かん水	植え付け	収穫	収穫始め																																			
	中																																							
	下																																							

